

仙台市文化財調査報告書第122集

年報 9

昭和62年度

1988年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第122集

年報 9

昭和62年度

1988年3月

仙台市教育委員会

序 文

近年の報道をみてもわかるように、文化財に対する市民の関心が高まっていますことは、この一端を担当するものとして大変よろこびます。

さて、今年度は従来の仙台市に新しい仲間をむかえることになりました。11月に宮城町、3月に泉市と秋保町です。これによって市域が約3倍、文化財とされるものの数が約2倍に増加しました。

もとより、文化財とされるものには行政の境界がないものですから、文化財なるものを広域にとらえるには、より良き環境になったと言えるでしょう。半面、それだけの広さとそれだけの数への対応を従前どおりの考え方でのぞむなら、単に忙しさを増し、その内容も希薄となるでしょう。

「温故知新」という言葉がありますが、新しい街づくりにいかに“文化財”を活かしていくかということを常に念頭において担当として対処していく所存ですが、市民皆様のお知恵も拝借して行かざるを得ません。合併が良かったといえるような文化財が活きる街づくりのために市民各位のさらなるご支援並びにご助言をお願い申し上げ、刊行のごあいさつとします。

昭和63年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井 素

目 次

序文	
目次	
例言	
I 事業報告	1
1. 管理関係	1
(1) 一般文化財	1
(2) 補助事業	2
2. 調査関係	3
3. 普及啓蒙関係	5
II 調査報告等	7
1. 富沢遺跡	8
(1) 第31次調査	8
(2) 第32次調査	13
2. 富沢遺跡（第29次調査） プラント・オパール分析調査報告	18
3. 岩町古墳出土の銅鏡について	23
4. 南小泉遺跡出土の弥生時代の石器一例	28
仙台市文化財調査報告書刊行目録	
昭和62年度文化財課職員録	

例 言

1. 本書は仙台市教育委員会文化財課が昭和62年度に行った調査、普及啓蒙、保護管理に関する各事業についての年度報告書である。
2. P 7 の地形図は、建設省国土地理院発行「仙台（5万分の1）」の一部を縮少使用したものである。
3. II-1 で表示される北は真北を示す。仙台では磁北は真北に対して西偏約 7°20' (昭和59年) である。また土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原：1970）を使用した。
4. 本書の執筆担当職員は文末に明示した。特に II-2 では古環境研究所の杉山真二氏、II-3 では東北大学院生の藤澤敦氏の寄稿をいただいた。
5. 本書の編集は全員の協力のもとに、結城慎一が担当した。

I. 事業報告

1. 管理関係

(1) 一般文化財

1) 文化財保護委員会の開催

定例会（隔月開催）6回及び臨時会1回、計7回開催した。

11月には宮城町、63年3月には泉市、秋保町との合併で、有形文化財では県指定が4件、市指定が4件、無形民俗文化財では国指定が3団体、県指定が7団体、市指定が5団体、名勝としては国指定が2件、天然記念物としては国指定1件、市指定が6件、史跡としては市指定が4件、計国指定6件、県指定11件、市指定19件とふえた。

2) 文化財パンフレットの作成

『仙台の民俗芸能2』を発行、11月に合併した宮城地区の芸能を紹介した。

3) 説明板・標柱の設置

今年度は説明板を8基設置した。（設置対象文化財：成覚寺山門、莊嚴寺山門、輪王寺山門、大満寺虚空藏堂、大願寺山門、泰心院山門、旧仙台城板倉、燕沢遺跡）

4) 土標の設置

5基を設置した。（北畠治町／北五番丁、南材木町／竹屋横丁、南染師町／南石切町、北材木町／跡付丁、原町／大源横丁）

5) 啓蒙・普及活動

① “広報ぶんかざい” の発行

今年は6回発行した。

② 文化財めぐり・講座・考古展の開催

行事事名	講師等	参加者	実施月日	内容
親子文化財めぐり “藍染めの里を訪ねて”	講師：近江恵美子（東北生活文化大学講師） 藍染美代子（仙台市博物館学芸員） 実技：千葉よしの（宮城県無形文化財保持者）	25組(55名)	昭和62年 7月24日(土)	藍の栽培から染めるまでを一環して行っている手業さんの話を中心として、昔から伝えられてきたものづくりの心にせまってみた。 (記録映画“武州藍”を観賞)
体験学習 “挑戦—君は先人の知恵を超えるか”	講師：当課調査係職員	10組(25名)	昭和62年 8月11・19 ・20日	• 石器づくり・瓶穴住居作り • 火おこし・食体験 • 土製品づくり ※先人の知恵や技を体験することにより
体験学習 “発掘調査—君は古代人に会えるだろうか”	同上	30名	昭和62年 7月26日(土) 8月23日(土)	• 古墳遺跡 • 郡山遺跡

行事名	講師等	参加者	実施月日	内容
民俗芸能のつどいパート3 “仙台の芸能はいま…… くらしと心のアルバム”	出演団体：坪沼小学校、青 麻神社神楽保存会、川前の 鹿踊保存会、芋沢の田植踊 保存会、下郷の田植踊保存 会、大倉の役入田植踊保存 会	200名	昭和62年 11月23日(月)	11月に合併した宮城地区的民俗芸能の紹介を目的として開催。
民俗芸能のつどい番外編 トライアングルトーク “民俗芸能 たて・よこ・ななめ”	講師：横山義平（通町熊野 神社神楽保持者） 垣内幸夫・池田雅子 (宮城教育大学助教 授)	45名	昭和62年 12月12日(土)	市内の各民俗芸能保存会の状況を考えると次の世代にどう継承していくかが問題となっている。そこで伝承の意味について語り合ってもらった。
文化財展 “よみがえる記憶—そして 地下鉄は走った—”	・展示／藤崎リビング館 ・講演会／ 講師：小林達雄（国学院 大学教授）	・展示 2,000名 ・講演会 200名	・展示 昭和62年 12月18日(水) ～ 12月23日(月) ・講演会 昭和62年 12月19日(日)	高速鉄道建設に先立ち実施した 調査成果などをはじめてまとめた 形で公開。講演会では特に今回の 調査で巨大土偶が出土したこと に関連して「土偶の世界」と題して その精神文化について語り合った。
第10回文化財展 “昭和62年度の成果と宮城 地区的文化財”		2,000名	昭和63年 3月14日(月) ～ 3月19日(土)	昭和62年度の調査成果を中心に 紹介。また11月に合併した宮城地区の文化財もあわせて紹介。

6) 文化財分布調査

昭和59・60年度で仙台市岩切の東光寺を中心とした板碑の分布調査を行ったが、今回は岩切、高砂、中野など七北田川流域の板碑の分布状況を調査した。

7) 指定文化財の維持管理

- ①陸奥国分寺跡、国分尼寺跡、遠見塚古墳、山田上ノ台遺跡、三沢初子の墓などの除草・清掃を委託で実施した。
- ②昭和61年度で環境整備工事が完了した遠見塚古墳について、完了後の現況平面図を委託で作成した。

8) 文化財の防災点検

恒例の文化財防火デー（1月26日）に伴い、市消防局の事前査察が行われた。各所で防災訓練を行った。

(2) 捕助事業

1) 県費補助事業

①指定文化財保存事業

大崎八幡神社、東照宮については防災設備の保守点検及び一部修理に対し補助した。陸奥国

分寺薬師堂については防災設備の保守点検に補助した。

②無形文化財技術保持事業

館山中午氏（平曲技術保持者）、甲田綏郎氏（精好仙台平技術保持者）の技術保持事業に対し補助した。また、民俗芸能の後継者育成等の事業に対して補助した。（補助対象保存会；大崎八幡神社能神楽保存会外10団体）

2) 国庫補助事業

①陸奥国分寺跡土地買上げ事業

陸奥国分寺跡地内の土地664.02m²を起債で取得した。これを含めて約22,000m²を取得している。（指定面積の24%）

②郡山遺跡ほか発掘調査事業

- ・郡山遺跡—第2次5ヶ年調査の3年目として、Ⅱ期宮衙跡に付属する寺院跡の南西地区を中心調査を実施した。（調査面積約2,400 m²）
- ・仙台平野の遺跡群—陸奥国分寺跡2ヶ所、郡山遺跡4ヶ所、北目城跡1ヶ所の計7ヶ所を調査した。（調査面積660 m²）

（山口宏）

2. 調査関係

昭和62年度発掘調査事業は、国庫補助事業として①郡山遺跡 ②仙台平野の遺跡群の発掘調査がある。自主事業として③～⑤富沢遺跡 ⑥郡山遺跡 ⑦北前遺跡 ⑧王ノ壇古墳他 ⑨馬場城跡の公共事業に係る発掘調査がある。受託事業として⑩下ノ内浦遺跡 ⑪東光寺遺跡 ⑫上野遺跡 ⑬燕沢遺跡 ⑭けんとう遺跡 ⑮泉崎浦遺跡 ⑯～⑯富沢遺跡の民間等の開発に係る発掘調査がある。以下それぞれの概略について述べる。

- ①、②については、前述の国庫補助事業の項目を参照。
- ③ 古墳時代から近世までの8時期以上にわたる水田跡を検出。特に古墳時代の水田跡には短期間に多量の砂が堆積し、遺存状況が良好である。旧表土下3m（標高7m）の地点で、後期旧石器時代（約23,000年前）の文化層を検出。石器約50点、樹木（トウヒ属）の幹、根多数が出土した。昭和63年度への継続調査となる。
- ④ 弥生時代のうちで5時期に分けられる水田跡を検出。その下2mより縄文時代早期の遺物包含層を検出。
- ⑤ 弥生時代から近世までの水田跡を6枚検出。
- ⑥ 寺院域外において四面廻付建物1棟、掘立柱建物跡17棟他を検出。弥生時代及び縄文時代の遺物包含層を検出。四面廻付建物跡他数棟は、校舎の地下に保存した。

- ⑦ 縄文時代中期住居跡 3軒、前期～中期の土坑15基検出。
- ⑩ 平安時代の火葬施設及び蔵骨器を検出。縄文時代早期落し穴11基検出。
- ⑪ 中世の井戸跡、溝跡を検出。近世の溝跡、杭列を検出。
- ⑫ 縄文中期の土坑23基検出。同時期の土器多数出土。
- ⑬ 平安時代の住居跡 2軒検出。
- ⑭ 1,300 m²を試掘。
- ⑮ 弥生時代から古墳時代の水田面を 2枚検出。
- ⑯ 弥生時代の水田面を 1枚検出。
- ⑰ 平安時代の水田面を 1枚検出。
- ⑱ 弥生時代の水田面を 5枚、平安時代の水田面を 3枚検出。
- ⑲ 弥生時代から近世までの水田面を 7枚検出。大足も出土。
- ※ その他、2件の整理作業・報告書刊行作業あり。
- ※ 遺物保存処理事業として、富沢遺跡出土の木製品等、裏町古墳出土の鏡等の金属製品の保存処理を実施。

以上の発掘調査等を実施した。本年度11月1日 宮城町と合併し、⑨馬場城跡に係る造構確認調査を実施した。3月1日 泉市と秋保町を合併し、一部の遺跡の整理作業を実施した。

(佐藤隆)

昭和62年度発掘調査の概略

遺跡名	時代	種類	調査面積	調査期間	担当職員	報告書	事業別
1 郡山遺跡	古墳～奈良	古墳跡	2,423m ²	4/27～12/4	木村、大江、宮崎	110集	国庫補助
2 仙台平野の遺跡群	古墳～平安	一	661	4/27～11/27	結城、及川、千葉、中高	111集	*
3 富沢遺跡(1)	縄文～近世	生産遺跡他	3,500	4/13～3/31	太田、樋木、森野、平間、渡辺(雄)	112集	自主事業
4 *	(2)	*	2,800	4/10～8/10	佐藤(甲)、佐藤(淳)、吉岡	114集	*
5 *	(3)	*	1,050	4/10～6/24	上原(曾)、平間	113集	*
6 郡山遺跡	縄文～奈良	古墳跡他	3,000	4/13～9/11	長島、千葉、中高、渡辺(雄)	115集	*
7 北前遺跡	旧石器～平安	集落跡他	1,000	10/14～12/11	小川、渡部(紀)	116集	*
8 王ノ堀古墳	古墳～平安	古墳他	1,050	11/2～12/11	結城、中高	117集	*
9 馬場城跡	中世	城跡	3,000	11/15～12/1	工藤(信)	118集	*
10 下ノ内浦遺跡	縄文～平安	集落跡	810	4/27～9/30	小川、渡部(紀)	119集	受託事業
11 東光寺遺跡	中世～近世	集落跡他	750	4/10～6/30	金森、(古川、伊藤)	120集	*
12 上野遺跡	縄文	集落跡	100	5/6～6/5	結城	121集	*
13 熊沢遺跡	古墳～平安	集落跡	310	9/24～10/30	結城、中高	122集	*
14 けんとう城跡	平安～中世	遺物散布地	1,300	10/5～12/11	金森、佐藤(淳)	123集	*
15 舟崎浦遺跡	弥生～平安	生産遺跡他	570	10/28～11/28	主浜、(真山)	124集	*
16 富沢遺跡(4)	縄文～近世	*	280	4/27～7/7	渡部(弘)、宮崎	125集	*
17 *	(5)	*	70	7/14～8/8	*	126集	*
18 *	(6)	*	270	8/25～10/31	主浜、(斎藤)	127集	*
19 *	(7)	*	620	10/26～12/11	佐藤(洋)、(鈴木、菊地)	128集	*

3. 普及啓蒙関係

歴史の体験

先人の遺産である文化財を歴史として様々に体験する活動を行った。体験に際しては、五感を最大に活用できるものをめざした。

なお、今年度は、体験学習・見学会・広報紙発行・考古展開催・親子体験行事・記者、現地説明会等を行った。以下概略を記す。

(1) 体験学習

今年度は、仙台市立鹿野小学校・東長町小学校に協力を依頼し年間の行事としての学習とした。

事前見学（学習内容の確認と事実の把握・事物・事象の提示を行う。）

事前指導（調査概要・市内の歴史の学習・意識の高揚と確認）

実体験（調査現場（郡山・富沢遺跡）において実際に体験をする。）

事後見学（実体験の場を再び見学し学習のまとめを行う。）

また各指導の間には、パネル写真・図面等で調査現場の変様を各学校に提示する。

以上の活動を行うことにより、ひとつの教材としての体験学習となり、身近な地域の自然的、文化的環境が学校教育の場に活用され、地域教材として学習を進めることにより、児童・生徒の地域への関心が高まり、さらに郷土の文化財への愛着を増した。今後も広く体験学習の広がりが必要である。

(2) 見学会

体験学習のうち調査現場において見学のみを行うものである。見学に際しては、随時調査員が遺跡の説明を加え、開かれた調査をめざすものである。

今年度は、郡山遺跡で1件、富沢遺跡で5件の見学会が実施された。

(3) 広報紙

発行3年目をむかえた「広報文化財」は第25号目を数えた。加えて今年度は、各調査現場が広報紙を発行した。

郡山遺跡通信（郡山中学校建設予定地発掘調査事務所）

発掘ニュース（仮称長町南小学校建設予定地発掘調査事務所）

広報紙の発行は、地域住民に身近かな遺跡として発掘調査が理解されるものとしてかなり有効であることがわかった。

(4) 考古展

地下鉄関係の遺跡等を紹介した「よみがえる記憶」一そして地下鉄は走った一が12月18日～

23日開催され、約2,000人の参加者を記録し、関連して行われた講演会「土偶の世界」—その精神文化を探る一を国学院大学教授 小林達雄氏が約2時間にわたり講演された。

(5) 親子体験行事

夏休みに親子で文化財に対するふれあいの活動として行なわれているこの行事、今年度は、「挑戦」—君は先人の知恵を超えるかーと題して下記のとおり行われた。

第一日目 仙台市博物館を会場に土器作りに挑戦した。まず、映画「うつわ」を鑑賞し、土器に対しての自らのイメージ作りのち土器作りを始めた。そして約3時間後様々なかたちの土器ができあがった。ここで約1週間ほど乾燥させた。

第二日目 山田上ノ台遺跡、山田市民センターを会場に野焼き、石器・竪穴住居作り、火起
第三日目 } し、食体験を行った。野焼きは、自ら作った土器を焼きその土器を使って食体験を行った。ケツ岩を打ち割り石器を作り、竪穴住居を作り、ヒモギリ式の火起しをして、作った石器で野菜や魚を切り、塩味で食体験をした。竪穴住居は、夏休み中地城住民のために残しておいた。

(6) 記者・現地説明会

発掘調査現場での調査の成果を一般市民に公表し、その地域での文化遺産としての遺跡意識を高めてもらい、ひいては文化財に対しての保護精神の高揚を目的に行われた。記者発表4回、現地説明会2回を行った。

(松本清一)

II 調査報告等

今年度以下で報告する事項は富沢遺跡内の小規模調査報告が2件、同遺跡内のプラントオバール分析結果報告が1件、裏町古墳出土銅製鏡に関する報告が1件、南小泉遺跡出土石器の紹介が1件である。

富沢遺跡の調査報告は今年度調査を実施したものであり、プラント・オバール分析は第29次調査区から採取した資料分析結果である。裏町古墳は昭和45・46年に調査が行われ、その際、銅鏡が出土してこれまで珠文鏡とされていたが、このほど乳文鏡と訂正したので、その詳細を紹介する。南小泉遺跡の石器紹介は、昭和59年度に発掘調査を実施した第12次調査区出土遺物に紙面を割いたものである。



開遺跡位図

1. 富沢遺跡

遺跡の位置と環境

富沢遺跡（仙台市文化財登録番号C-301）はJR長町駅の西約0.6~2.3kmの地点、仙台市长町七丁目、長町南一・三・四丁目、泉崎一・二丁目、鹿野三丁目、富沢一丁目に位置する（第1図）。本遺跡は、沖積平野である「宮城野海岸平野」（註1）に含まれ、特に名取川とその支流広瀬川付近の河間低地である「郡山低地」西半部の後背湿地にその大半が立地する。標高は9~16mで、面積約80万m²を有する大規模な遺跡である。

本遺跡発見の契機となったものは昭和56年に実施された山口遺跡の調査で、調査区北半部の後背湿地で平安時代の水田跡が検出されたのが始まりであった（註2）。同年後、仙台市高速鉄道関係遺跡の調査が行われていたが、57年度の調査で後背湿地から中世・平安時代、さらには弥生時代の水田跡も検出された（註3）。その後の調査でも各時代の水田跡が検出されるに及び（註4・5・6）、本遺跡内には弥生時代まで遡る水田遺構が重層構造を成して広く存在することが確実となつたのである。

周辺の遺跡を時代毎に概観すると、旧石器時代では山田上ノ台遺跡・北前遺跡があり、縄文時代では下ノ内浦遺跡・六反田遺跡がある。下ノ内浦遺跡では弥生時代の遺構・遺物も発見されている。古墳時代では本遺跡内に教塚古墳があり、北西方に裏町・砂押・金洗沢古墳があり、南方には五反田・春日社・鳥居塚・王ノ壇古墳などを含む大野田古墳群がある。奈良・平安時代では六反田・下ノ内浦遺跡で集落跡が発見されている。中世では平城の富沢館跡・山城の茂



第1図 調査位置図

ヶ崎城跡がある。

今回報告の調査は本遺跡の中心よりやや東側よりの地下鉄長町南駅南側部分と、それよりも南東側約150mに位置する部分の2地点である。

(1) 第31次調査

1. 調査に至る経過

当調査区は遺跡中央部東より、仙台市長町南三丁目3番地内にある（第1図）。昭和61年10月15日付で、地権者 佐竹栄吉氏よりビル建設をする旨の発掘届が提出された。掘削深度が深く、隣接地の調査（註7）で構造物が検出されていることから、工事着手前に発掘調査を実施することで申請者の承諾を得、昭和62年4月27日から調査を実施した。

2. 基本層位

大別で19層確認した。各層位の土色・土性については第4図の通りである。1層から4層までは粘土質のシルト層で1層は現代の水田作土である。5層から17f層までは粘土質シルト層とスクモ層の互層で全体的に植物遺体を含んでいる。17h層には火山灰と考えられる灰白色土を霜降り状に含んでいる。19a層以下はグライ化が進み、19b層は非常にしまりがある。北壁部の断面観察では18a層を上面とし19b層を底面とする河川跡がみられ基本層位がレンズ状に堆積している。

3. 発見遺構（第2図）

① 2層上面検出の上坑

2層上面での確認であるが、上層での掘り込みとも考えられる。大きさは南北軸73cm、東西軸65cmを計り、平面形はややゆがんだ円形となっている。断面形はやや口の開いたU字状で深さは22cmである。堆積土は黒色系のシルト及びスクモがブロック状に入っており、入為堆積と考えられる。遺物として竹製品・木片が出土している。

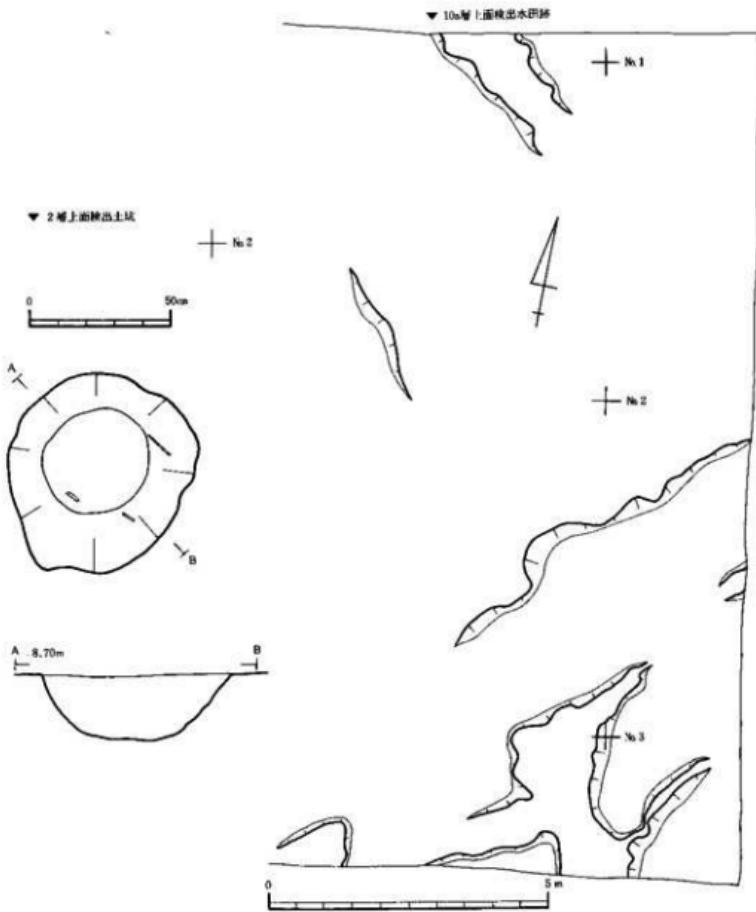
② 10m層上面検出水川跡

調査区東側で断片的に検出した。東北及び東南側で畦畔の盛り上がりを6条、中央部で段差を2条確認している。区画の大きさは知り得ない。南北に延びる畦畔の方向はN-44°～47°-Wである。南北に延びる畦畔は東西に延びる畦畔に比べて幅が広く、大畦と小畦の関係も考えられる。南北の畦畔は上端幅1.5～2.1m、下端幅で2.1～2.5mで、東西の畦畔は上端幅0.4～1.3m、下端幅1.1～1.9mを計る。畦畔の高さは最大で3.5cmを計る。尚、中央部の段差も方向等からみて部分的に削平を受けた畦畔と考えられたが断定はしえなかつた。遺物は出土していない。

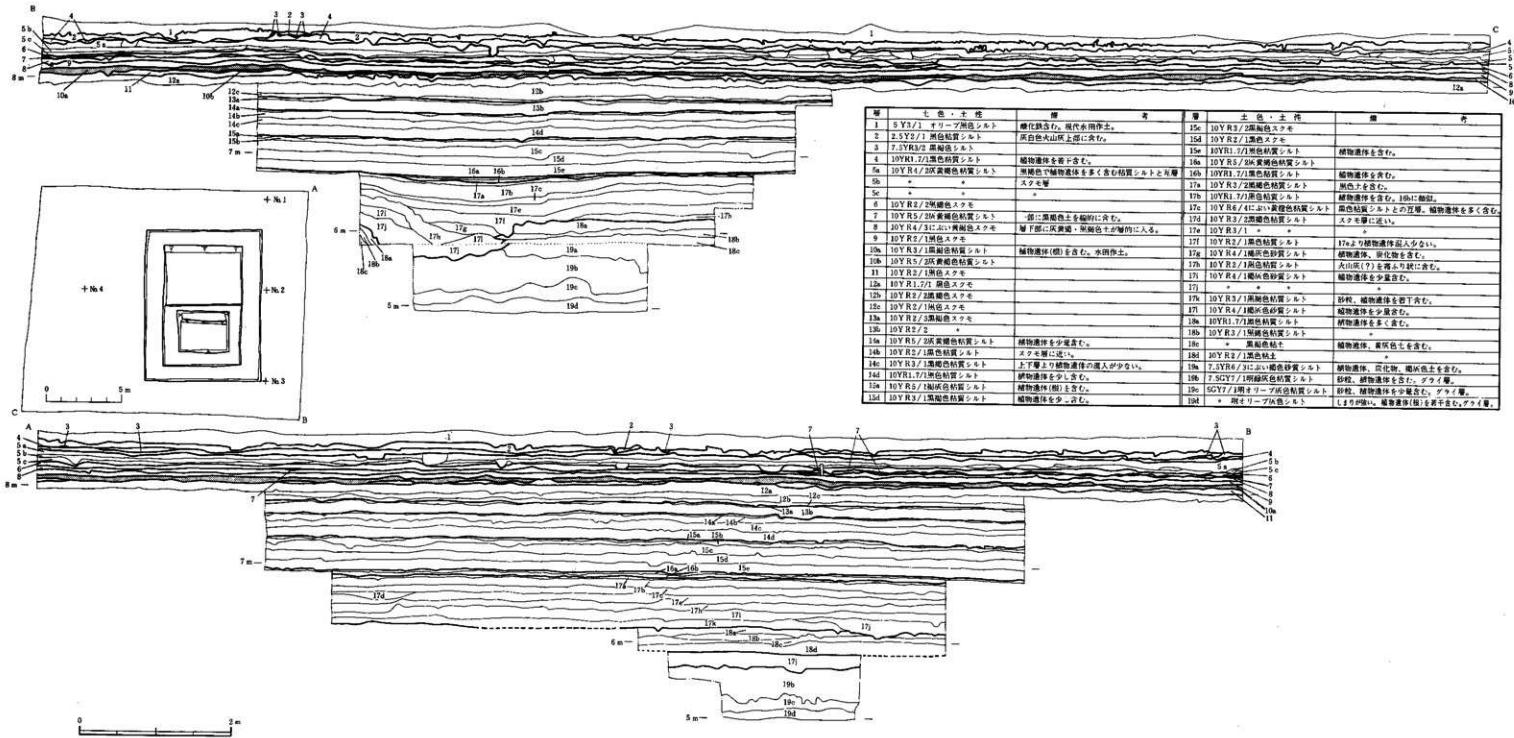
4. 出土遺物

上坑から串状の竹製品・木片が出土したほか、1・2層から近世以降の陶磁器類・土師質土

器・瓦片・金属製品・古銭（文久永寶・寛永通寶）・煙管・石器などが數十点出土した。また、5・11・17層中より木片を採取したが、11層取り上げのものには加工面の確認されるものが1点含まれている。尚、5・10・17層より桃・くるみ等の種子も若干発見されている。



第2図 第31次調査発見遺構



第3図 第31次調査区断面（見通し）

(2) 第32次調査

1. 調査に至る経過

当調査区は遺跡の東南部、仙台市長町南三丁目10—6地内にある(第1図)。昭和61年7月9日付で畠山興業代表取締役 畠山博氏より富沢遺跡の発掘届が提出された。その内容は上記地内にビルを建設するというものであった。掘削深度が深く、遺跡東南部の状況把握の必要性などから、工事着手前に調査を実施することで申請者の承諾を得、昭和62年7月14日から調査を開始した。

2. 基本層位

21層確認した。各層位の土色・土性については第6図の通りである。全体的に粘土質の土壤である。1層はごく最近までの水田作土で、直下の2層はややグライ化している。4a層は水田土壤で4b・4c層を搅拌し層が形成されていることが断面で観察される。8層から21層には植物遺体を層的に含み、4b層以下では黒色土と灰色土の互層が下層までみられる。尚、3a・3b層中には灰白色の火山灰が斑状に含まれている。

3. 発見遺構(第4図)

① 3層上面検出の溝跡

溝跡北側では確認面が4層となっているが上部からの削平のためと考えられる。調査区東側から西側へ直線的に延び、西壁付近で南側へ屈曲している。大きさは上端幅で1.4~1.9m、下端幅は0.4~1.0mで、深さは13~22cmを計る。底面はほぼ平坦で東側へ傾斜がみられる。遺物は出土していない。

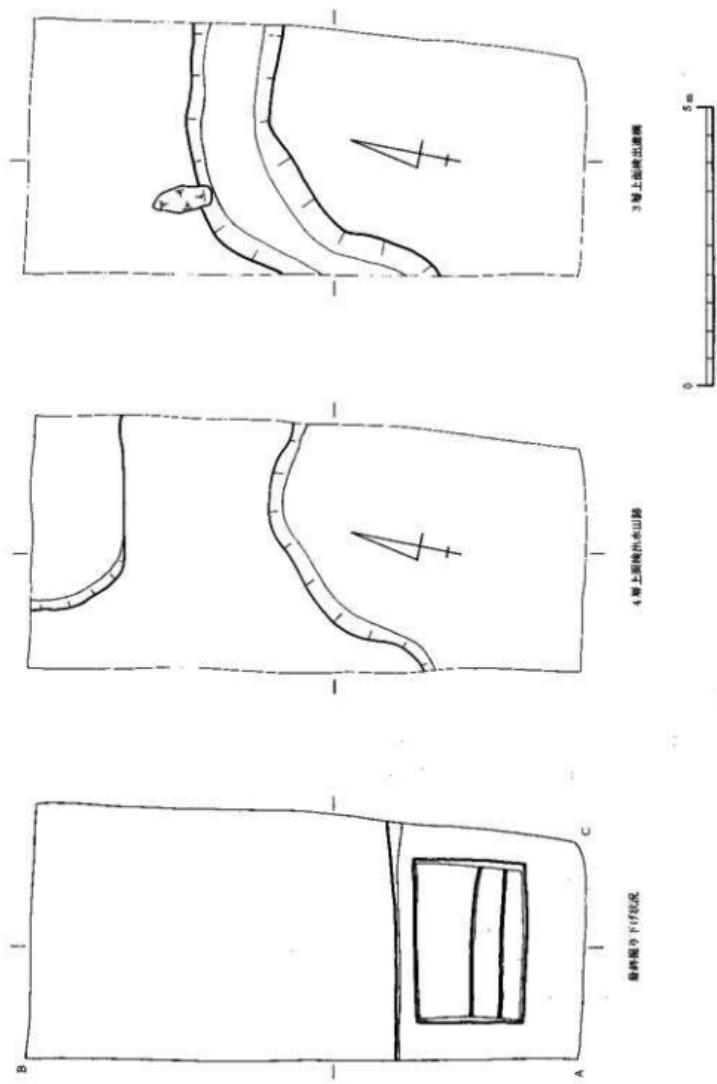
② 4a層上面検出水田跡

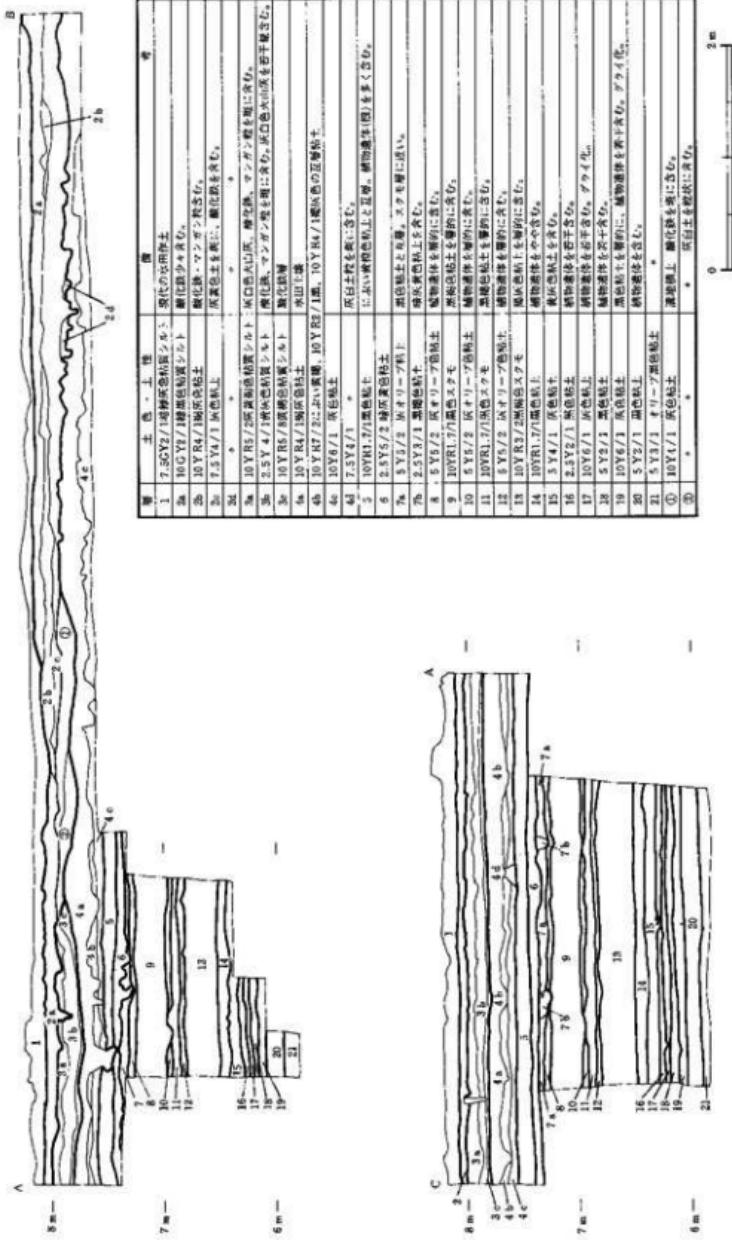
2層及び3層除去中に4a層の盛り上がりを確認し、平面・断面観察の結果、畦畔と考えられた。形状は調査区東側から西側へ直線的に延び、西壁付近で南北に扇状に広がる。断定は出来ないが畦畔の接点部分と考えられる。東西に延びる畦畔の方向はN-12°-Wである。畦畔の大きさは東側で上端幅2.62m、下端幅2.88mを計り規模の大きなものである。高さは最大11.1cmを計る。断面形は偏平な台形を呈する。遺物は出土していない。

4. 出土遺物

1層及び2層から陶磁器類・中世陶器・古銭(寛永通寶)・瓦片が出土し、3a・3b層からは摩耗しているが同一個体と考えられる土師器坏片が出土している。

第4圖 第32次調查區兔見道橋





第5圖 第32次調査区断面

ま　と　め

今回の調査では調査面積及び遺構の遺存状態の面から水田跡の詳細な資料は得られなかつたが、各々一時期の水田遺構を検出することができ、富沢遺跡における遺構の広がりを確認することが出来た。

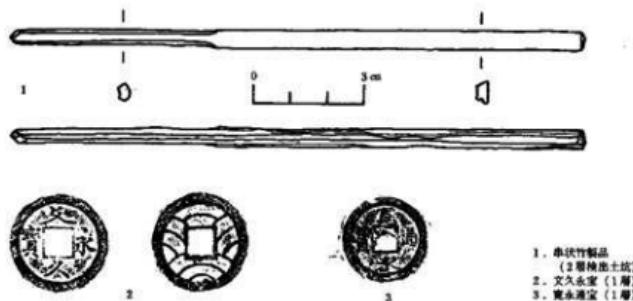
第31次調査では2層上面で土坑を、10a層上面で水田跡を確認した。共に年代を特定できる遺物がなく、時期不明で断定には至らないが、周辺での調査成果との対比から水田跡は弥生時代、土坑は平安時代以後のものと考えられる。また、2層上面では灰白色火山灰と動物の足跡（牛？）と考えられる円形の落ち込みを無数確認しており、2層は平安時代頃の水田土壤と考えられる。

第32次調査では3層上面・2層下面で屈曲をみる溝跡を、4a層上面で水田を確認した。出土遺物が共になく時期は特定出来ないが、水田跡は3層（灰白色火山灰を含む層）下に位置しており、平安時代及びそれ以前の時期が考えられる。尚、畦畔は幅2mを超す規模の大きなもので注目される。

（宮崎 明）

註・参考文献

- 註1 地学同好研究会「新版 仙台の地学～仙台支部編～」 1980
- 註2 仙台市教育委員会「山口遺跡Ⅱ発掘調査報告書」「仙台市文化財調査報告書第61集」 1984
- 註3 仙台市教育委員会「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ」「仙台市文化財調査報告書第56集」 1983 尚、時期決定は「同調査概報Ⅱ」の中で行われている。
- 註4 仙台市教育委員会「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ」「仙台市文化財調査報告書第69集」 1984
- 註5 仙台市教育委員会「富沢水田遺跡～第一～泉崎前地区」「仙台市文化財調査報告書第67集」 1984
- 註6 仙台市教育委員会「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ」「仙台市文化財調査報告書第82集」 1985
- 註7 仙台市教育委員会「仙台平野の遺跡群Ⅱ」「仙台市文化財調査報告書第75集」 1985



第6図 第31次調査区出土遺物

第31次調查

第32次調査

圖版 1 基本層位斷面

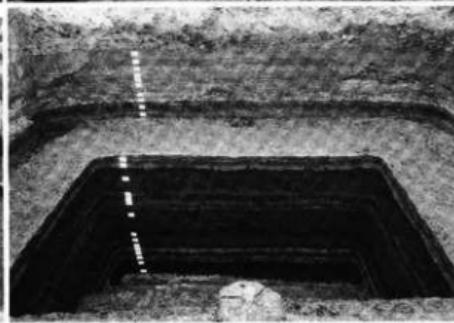
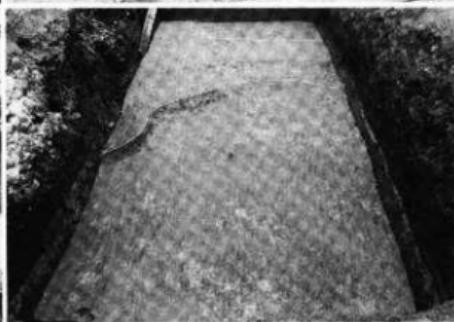
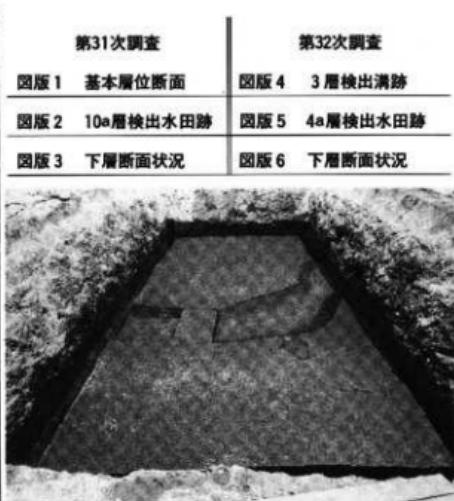
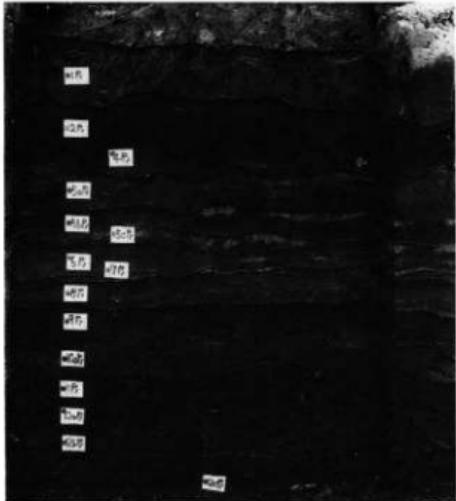
図版2 10a層検出水田跡

圖版3 下層斷面狀況

圖版4 3層換出溝跡

图版5 4a层检出水田路

圖版 6 下眉斷面狀況



圖版 7 第31次調查出土遺物

2. 富沢遺跡（第29次調査）プラント・オパール分析調査報告

(1) 試料

試料は、遺跡調査の担当者によってフィルムケースを用いて採取されたものである。

試料が採取されたのは、A地点とB地点の2箇所で、各層ごとに5~10cm間隔で採取された。このうち、2a'層、4a層、9a層、10d層からは珪が検出されており、水田作土と見られていた。

(2) 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の手順で行った。

絶乾資料約1gにガラスピーブ混入（直径約40μm、約30万個）、電気灰化法または過酸化水素水による脱有機物処理、超音波による分散、沈底法による20μm以下の微粒子除去、乾燥、オイキット中に分散、プレパラート作成、検鏡・計数。

同定は、機動細胞に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）を対象に、400倍の偏光顕微鏡下で行った。

計数はガラスピーブが300個以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーブ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーブ個数の比率をかけ、さらに仮比重をかけて単位体積あたりのプラント・オパール個数を求めた。

このようにしてイネのプラント・オパール密度を測定していくと、水田跡が埋蔵されている層にピークが現れるのが通例である。通常、イネのプラント・オパールが試料1ccあたり5,000個以上の場合に、水出跡の可能性があると判断している（藤原ほか1984）。

また、表1の換算計数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて植物体量を算出した。これは実際の植生を定量的に把握するのに有用である。

表1 各植物の換算係数（単位： $10^{-6} g$ ）※藤原（1979）の第1表を一部改変。

植物名	葉身	全地上部	種実
イネ	0.51	2.94	1.03
ヒエ	1.34	12.20	5.54
ヨシ	1.33	6.31	—
ゴキダケ	0.24	0.48	—
ススキ	0.38	1.24	—

(3) 分析結果

イネ・キビ族（ヒエなど）、よし属、タケ亜科（竹筍類）、ウシクサ族（ススキ等）について同定・定量を行い、数値データを表2に示した。

イネ、ヨシ属、タケ亜科について植物体生産量を算出し、図1にグラフで示した。これは、稲穀の生産総量や古環境を推定する際の基礎資料となる。柱状図内のポイントは、最上面から1m深ごとの位置を示している。

(4) 考 察

1) 稲作の可能性について

現水田作土である1層からは、イネのプラント・オパールが18,000個/ccと多量に検出された。

近世の水田作土とされる2a'層からは、イネのプラント・オパールが約10,000個/ccと多量に検出された。同層で稻作が行われた可能性は極めて高いと考えられる。

4a層では、イネのプラント・オパールが4,000個/cc程度検出された。同層で稻作が行われた可能性はあるものの、直上に密度の高い層があることから、これらのプラント・オパールは上層から混入したものである可能性も考えられる。

4b層の上部では、イネのプラント・オパールが1,000個/cc程度とわずかに検出された。量的に少ないと直上に密度の比較的高い層があることから、これらのプラント・オパールは上層から混入したものである可能性が高い。同層の下部では、イネのプラント・オパールは検出されなかった。

8a層、8b層では、イネのプラント・オパールは検出されなかった。

A地点の9a層からは、イネのプラント・オパールがごくわずかに検出されたが、B地点の同層からは検出されなかった。量的に非常に少ないため、これらのプラント・オパールは同層で行われた稻作に由来するものではなく、周辺から混入したものと考えられる。仮に、同層で稻作が行われたとすると、ごく短期間であったと考えられる。

9b層以下では、A地点、B地点ともイネのプラント・オパールはまったく検出されなかった。

2) 古環境の推定

全体的にタケ亜科はほとんど見られず、ヨシ属の卓越が著しい。試料採取地点の周辺は、ヨシの繁茂する湿地であったものと推定される。

ヨシ属は数回に渡って増減しているが、これは土壤水分条件の変化による影響とともに、土層の堆積速度の違いによる影響が大きく作用しているものと考えられる。

（杉山真二）

◎引用文献

- 藤原宏志。1976, プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸
体標本と定量分析法一, 考古学と自然科学 9 : 15-29
- 藤原宏志。1979, プラント・オパール分析法の基礎的研究（3）—福岡・板付遺跡（夜臼式）
水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ (*O. sativa L.*) 生産総量の推
定一, 考古学と自然科学 12 : 29-41
- 杉山真二・藤原宏志。1984, プラント・オパール分析による水田址の探査, 那珂君体遺跡Ⅱ,
福岡市埋蔵文化財調査報告書（福岡市教育委員会）第106集：5-9, 11-14
- 藤原宏志・杉山真二。1984, プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパ
ール分析による水田址の探査一, 考古学と自然科学 17 : 73-85

仙台、富沢遺跡

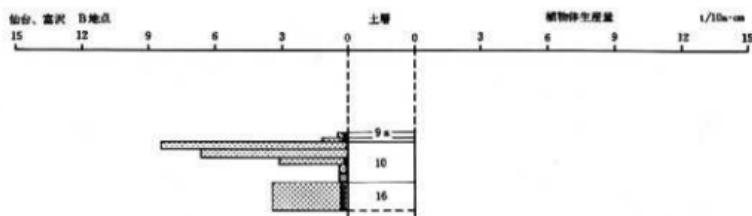
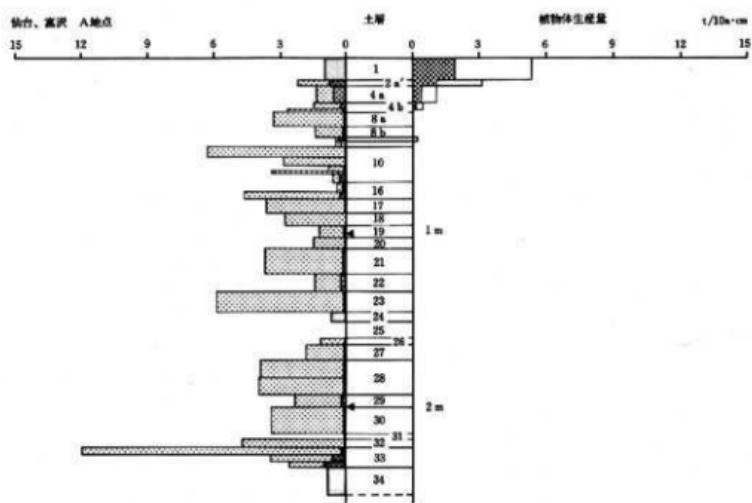
A地点

試料名	イネ	キビ族	ヨシ属	タケ亞科	ウシクサ族
1	18,113	0	0	19,119	0
2a'	10,600	0	3,180	15,900	0
4a1	3,711	0	1,856	11,133	0
4b1	1,388	0	2,082	3,471	0
4b2	0	0	3,869	1,658	0
8a	0	0	4,783	1,594	0
8b	0	0	2,023	2,023	0
9a	651	0	651	6,514	0
9b2	0	0	648	4,534	0
10a1	0	0	9,033	531	0
10a3	0	0	4,089	409	0
10b	0	0	1,061	1,061	0
10d	0	0	4,890	611	0
10e	0	0	783	5,483	0
16a	0	0	538	2,689	0
16b-1	0	0	3,666	2,619	0
16b-2	0	0	6,711	2,684	0
17	0	0	5,233	476	0
18	0	0	3,950	0	0
19	0	0	1,708	854	0
20	0	0	2,045	409	0
21	0	0	5,332	1,454	0
22	0	0	2,010	4,020	0
23	0	0	8,432	703	0
24	0	0	0	12,432	0
25	0	0	0	0	0
26	0	0	1,638	546	0
27	0	0	2,615	872	0
28-1	0	0	5,584	1,523	0
28-2	0	0	5,642	1,693	0
29	0	0	3,377	4,052	0
30	0	0	4,895	1,468	0
31	0	0	0	1,154	0
32	0	0	6,800	1,133	0
33-1	0	0	17,260	3,898	0
33-2	0	0	4,967	12,417	0
33-3	0	0	3,683	21,178	0
34	0	0	0	16,610	0

B地点

試料名	イネ	キビ族	ヨシ属	タケ亞科	ウシクサ族
9a	0	0	642	3,853	0
9b2	0	0	1,748	5,827	583
10a1	0	0	12,165	811	0
10a3	0	0	9,590	0	0
10b	0	0	4,533	2,061	0
10d	0	0	526	1,052	0
10e	0	0	0	6,312	0
16b	0	0	4,924	6,565	0

表2 試料1ccあたりのプラント・オバール個数



ヨシ

タケモ科

イネ

イネモ

第1図 おもな植物の推定生産量と変換

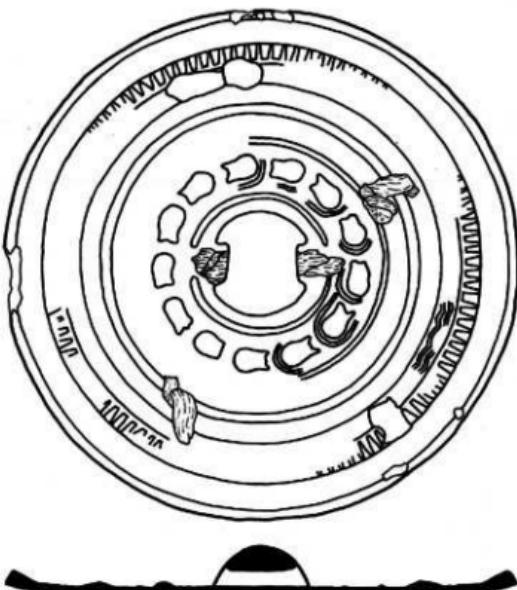
3. 裏町古墳出土の銅鏡について

裏町古墳は仙台市西多賀一丁目にあった西に前方部を向けた2段築成の前方後円墳で、家屋新築に伴い1972年と1973年の2次にわたり仙台市教育委員会が発掘調査を行った。¹⁾前方部端と後円部南側が破壊されていたため正確な規模は不明であるが、主軸長は50—60m程となると考えられる。後円部頂より河原石積堅穴式石室が検出され、石室内より鏡・刀子・細柄式片刃鉄鎌が各1点発見されている。主体部付近の盗掘坑とその周辺より須恵器が発見され、墳丘全域から円筒埴輪・朝顔形埴輪が大量に出土している。須恵器には器台・樽型甕・台付甕があり陶邑編年TK208型式の甕のものと考えられ、埴輪には2次調整B種ヨコハケを持つものと2次調整を省略したものがある。²⁾

この裏町古墳から出土した鏡は、1985年に角田市教育委員会が発掘調査を行った角田市横倉古墳群の吉ノ内1号墳出土の鏡とともに、宮城県内で発掘調査によって出土した鏡としては数少ない例である。この裏町古墳出土鏡は報告書では珠文鏡とされ、以後この認識が踏襲されていた。筆者はこの裏町古墳をはじめとする郡山低地とその周辺から出土した埴輪の検討を行った際に、小林三郎氏がこの鏡を微製獸帶鏡C型と分類されていることを紹介するとともに若干の検討を行い、小林氏の分類ではその指摘通り微製獸帶鏡C型であり、一般には乳文鏡と呼ばれるものであることを指摘した。³⁾

現在、仙台市教育委員会では東北歴史資料館に依頼して遺物保存処理事業を継続して行っているが、今年度の同事業の一環として、この裏町古墳出土鏡の保存処理を依頼した。その際にこの鏡を再度検討することができ、また東北歴史資料館と同村山城夫氏のご好意により、X線写真の撮影を行っていただいた。これらの検討の結果、いくつかの補足・訂正を行うべき点があるため、ここに新たに作成した図版とともに報告する次第である。

裏町古墳出土鏡は面径9.1cmで、一部欠損が見られる以外は完形である。銅質は粗質で鋳出しも悪く、文様が判然としない部分が多い。円座を配す円形錠のまわりに、2本の爪形の足を付けたような乳状の半肉刻の突起とその周間に横に長いC字状の細線をめぐらした文様を13個右まわりに配している。その外側には、やや間を置いて隆帯状の太い圓線がめぐるが、これらの部分には文様があったかどうかは残存状態が悪く不明である。太い圓線の外側は、複線波文帶—鋸齒文帶がめぐる。このような文様は、小林三郎氏の文類に従えば、獸帶文鏡C型にあたる。⁴⁾但し小林氏は四乳九獸を表すとしているが、13個の文様全てに上述の特徴が認められ、小林氏の分類に従えば乳をもたない13獸とするべきであろう。これは一般的には乳文鏡と呼ばれるものにあたる。鏡背には部分的に朱が付着している他、鉢と鏡背の2ヶ所に紐が銷着し残存している。紐は繩文原体の表現で表せば1段Rのようである。



第1図 裏町古墳出土鏡実測図(実大)



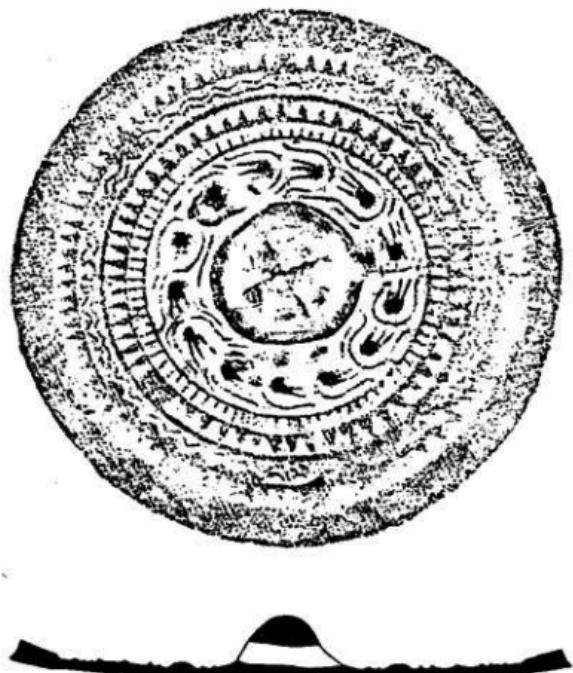
写真1 裏町古墳出土鏡全体写真



写真2 萩町古墳出土鏡X線写真



写真3 萩町古墳出土鏡細部写真



第2図 伝鳥取県東伯郡東郷町一の宮出土鏡
(「山陰の前期古墳文化の研究Ⅰ」より・ほほ実大)

鏡背側の複線波文帯から鋸歯文帯の部分にかけて、2ヶ所に不整形で偏平な突起が見られる。これらは張り付けたような状況を呈しており、型くずれによるものとは考えられない。また細長くて大きい方の突起のちょうど裏側の鏡面には、亀裂が部分的に観察される。X線写真で見ると、この細長い突起に沿う形で亀裂が走っていることが判る。もう一方の突起の部分に亀裂があるかどうかはX線写真でも判然としないが、表面の状態が類似することより、この2ヶ所

の突起は、亀裂などを補修した鉄掛であると考えられる。但し、鏡本体と補修部分の銅質は、肉眼観察では特に違いは見いだせない。日本の原始・古代の鉄銅製品における鉄掛は、銅鐸や銅劍にいくつかの例が見られる他、大阪府紫金山古墳出土の仿製三角縁三神三獸獸帶鏡に鉄掛が施されていると指摘されている。

裏町古墳出土鏡と同様の文様表現で13獸を表すものとしては、佐賀県唐津市杉殿古墳出土鏡¹⁰⁾と鳥取県東伯郡東郷町一の宮出土と伝えられるものがある(第2図)。杉殿古墳出土鏡は面径11.1cmで獸形の配列が左まわりであるのに対して、伝一の宮出土鏡は面径9.9cmで獸形の配列が右まわりであり、伝一の宮出土鏡の方が、裏町古墳出土鏡に良く類似する。伝一の宮出土鏡は、3本の爪形の足を付けた乳様の突起のまわりに横に長いC字状の細線をめぐらし、さらに一部にはもう一重細線をめぐらしたもののが13個右まわりに配されている。その外側は2重の鋸歯文帯—波文帯—鋸歯文帯となっている。裏町古墳出土鏡を、この伝一の宮出土鏡のより退化

したものを見るべきであろう。中期古墳の北限に近い裏町古墳出土鏡の類例が西日本に見られることは興味深いことであり、鉢掛の問題とともに、今後もさらに類例の発見に努めていきたい。

文末ではあるが、X線写真の撮影とその利用にあたって便宜を計っていただいた東北歴史資料館と同館の村山敏夫氏に感謝します。
(藤澤 敦)

[註]

- 1) 伊東信雄・伊藤玄二・青洲康治 (1974) 「裏町古墳発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第7集
- 2) 藤澤敦 (1987) 「第種草原車」、「大野田古墳群春日社古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第106集 PP. 54-90
- 3) 藤沢邦彦 (1987) 「4宮城」、「日本考古学年報38 (1985年度版)」PP.73-78
- 4) 註2文献に同じ。
- 5) 註2文献では、一部の文様が3本の足を付けたような形とも考えられるものがあることを重複して3本としたが、今回詳細に検討した結果、全て2本と考えられる。ここで訂正しておきたい。
- 6) 小林三郎 (1983) 「古墳時代鏡製錬の統式について」『明治大学人文学科研究所紀要』第21集 PP. 1-29
- 7) 桃山隆康 (1979) 「古鏡」新潮社
- 8) 小林行基 (1959) 「いかげ 鉢掛」『図解考古学辞典』創元社 P.37、近藤西一 (1970) 「平形銅鏡と銅鏡の関係について」『古代学』第十七号第三付 PP.143-155
- 9) 近藤西一 (1973) 「三角縁神紋鏡の仿製について」『考古学雑誌』第59巻第2号 PP.1-28
- 10) 松岡史 (1962) 「第二編第四章古墳時代」『唐津市史』、志佐博彦 (1977) 「付 佐賀県出土の古鏡一弥生・古墳時代一」『佐賀島山道路調査報告書』佐賀県立博物館研究書第3集
- 11) 山陰考古学研究所 (1978) 「山陰の前期古墳文化の研究」

4. 南小泉遺跡出土の弥生時代の石器一例

南小泉遺跡は、宮城野海岸平野において仙台市東部を東流する広瀬川左岸に位置している。^(註1) 遺跡の範囲は東西約1.5km・南北10.9km、面積約125haであり、そのほとんどは主に広瀬川によって形成された自然堤防に立地している。

ここに紹介する遺物は、仙台市教育委員会によって昭和59年9月5日～10月10日に行われた南小泉遺跡第12次発掘調査において出土した石器である。^(註2) 第12次調査では弥生時代・古墳時代中期・中世以降の遺構・遺物が検出されている。中でも弥生時代の遺構はⅢ層上面において樹形圓式～十三塚式期の土坑2基・溝跡1条が検出されており、遺物は基本層・他時期の遺構も含め調査区内より弥生土器1992点、石器495点が出土している。本石器はこれら495点の石器の中の1点であり既報告書において図示されていないものである。

本石器は基本層Ⅱb層中より出土している。Ⅱb層からは樹形圓式・十三塚式・天王山式の弥生土器・南小泉式の土師器が出土しており、他時期の遺物を含まないことから本石器は弥生時代樹形圓式～天王山式のいずれかの時期に所属するものと考えられる。

本石器の器種は2次加工のある剝片である。素材である剝片の表面は自然面である。表面左側面と上側面、裏面左側面に折れ面が認められる。2次加工は表面上側縁左右端部、表面下側縁右側、裏面左側縁下部に施されている。表面左側面には2次加工と考えられる剝離面が認められるが、同時割れの可能性もある。また表面下側縁には微細剝離痕及び摩耗痕が認められ、刃部として機能したことが考えられる。刃角はほぼ平坦な主要剝離面と自然面とによって形成された鋭い側縁の部分では24～33度、2次加工の施されている部分では48～59度を測る。現存する刃部は7.2cmである。本石器の規模については最大長15.5cm、最大幅13.3cm、最大厚29mm、重量は575.0gを測る。また刃部に直交する器幅は11cm以上である。石材は斑晶の大きな安山岩であり、産地は当遺跡南南西方約8kmの高館丘陵北部と推定される。

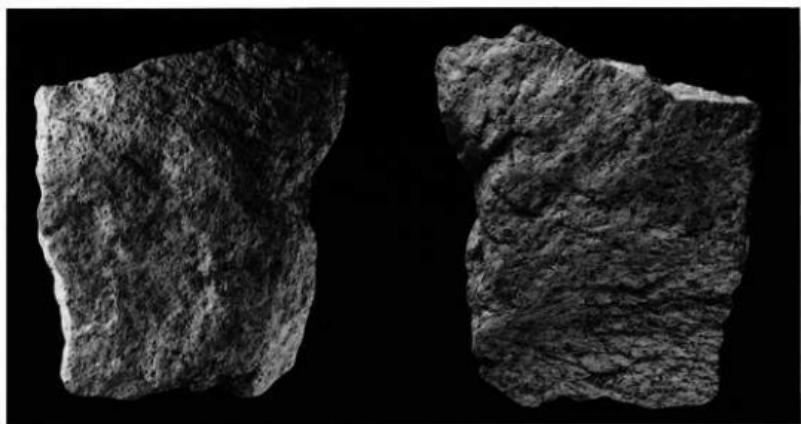
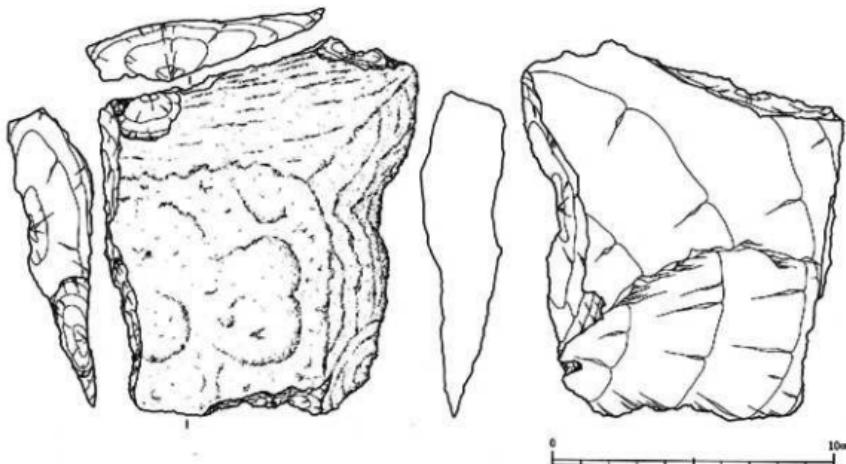
本石器は鋭い側縁を刃部としており、使用された痕跡として微細剝離痕及び摩耗痕が認められること、規模の点においてより大形であることから、富沢遺跡第15次調査において分類された「^(註3) 微細剝離痕のある石器Ⅰ類」に相当する。「微細剝離痕のある石器Ⅰ類」には特徴的な規模・形態・石材の認められる「大形板状安山岩製石器」があるが、本石器は形態的に板状ではあるが自然面である表面には凹凸がありやや肉厚であること、石材に安山岩を用いているが明瞭な板状節理が認められない点で異なる。

「^(註3) 微細剝離痕のある石器Ⅰ類」は富沢遺跡第15次調査においては弥生時代樹形圓式期及び樹形圓式期以前の水田跡から出土しており、水田耕作に関わり主に収穫以外の用途に使用されたものと推定されている。本石器は集落跡の存在が推定されている南小泉遺跡における出土であ

る点で、今後このような石器の在り方を考えていく上で貴重な資料といえる。 (斎野裕彦)

註

- 1) 地図研仙台支部編 1980 「新編 仙台の地学」
- 2) 佐藤甲二編 1985 「南小泉道路第一第12次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第80集
- 3) 斎野裕彦編 1987 「富沢一富沢遺跡 第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第98集



職 員 錄

文化財課

課長		早坂春一	調査係	調査係
管 理 係			係長 佐藤 隆	主事 斎野裕彦
係 長	成田時雄		上 事 結城慎一	・ 佐藤良文
主 任	岩澤克輔		教 論 太田昭夫	・ 長角榮一
上 事	白幡靖子		主 事 棚原原信彦	教 論 千葉 仁
・	山口 宏		・ 木村浩二	・ 松本清一
			・ 佐藤洋	主 事 及川 格
			・ 金森安季	・ 中富 洋
			・ 佐藤甲二	・ 平間亮輔
			教 論 小川淳一	教 論 渡辺雄二
			主 事 吉岡恭平	主 事 宮崎 明
			・ 渡部弘美	・ 佐藤 淳
			・ 工藤哲司	・ 松本素明
			教 論 橋本光一	・ 渡部 紀
			主 事 佐浜光朗	・ 大江美智代
				・ (併任)工藤信一郎

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物電屈下セコイア化石林調査報告書 (昭和39年4月)
 第2集 仙台城 (昭和42年3月)
 第3集 仙台市燕沢善光寺横穴古墳群調査報告書 (昭和43年3月)
 第4集 史跡陸奥國分尼寺跡環境整備並びに発掘調査報告書 (昭和44年3月)
 第5集 仙台市南小泉法輪寺古墳調査報告書 (昭和47年8月)
 第6集 仙台市荒巻五本松宮跡発掘調査報告書 (昭和48年10月)
 第7集 仙台市當沢寺町古墳発掘調査報告書 (昭和49年3月)
 第8集 仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書 (昭和49年5月)
 第9集 仙台市根岸町守神寺守護穴群発掘調査報告書 (昭和51年3月)
 第10集 仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報 (昭和51年3月)
 第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報 (昭和51年3月)
 第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報 (昭和52年3月)
 第13集 南小泉史跡一覧図認証調査報告書一 (昭和53年3月)
 第14集 奥邊跡発掘調査報告書 (昭和54年3月)
 第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報 (昭和54年3月)
 第16集 六反田遺跡発掘調査 (第2・3次) のあらまし (昭和54年3月)
 第17集 北星敷跡 (昭和54年3月)
 第18集 桧江遺跡発掘調査報告書 (昭和55年3月)
 第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書 (昭和55年3月)
 第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報 (昭和55年3月)
 第21集 仙台市開発関係遺跡調査報告I (昭和55年3月)
 第22集 綾ヶ峰 (昭和55年3月)
 第23集 年報1 (昭和55年3月)
 第24集 今泉城跡発掘調査報告書 (昭和55年8月)
 第25集 三神峯遺跡発掘調査報告書 (昭和55年12月)
 第26集 史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報 (昭和56年3月)
 第27集 史跡陸奥國分寺跡昭和55年度発掘調査概報 (昭和56年3月)
 第28集 年報2 (昭和56年3月)
 第29集 郡山遺跡I・昭和55年度発掘調査概報 (昭和56年3月)
 第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報 (昭和56年3月)

- 第31集 仙台市開発関係遺跡調査報告書 2 (昭和56年 3月)
第32集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書 (昭和56年 3月)
第33集 山口遺跡発掘調査報告書 (昭和56年 3月)
第34集 六反田遺跡発掘調査報告書 (昭和56年12月)
第35集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第1次調査報告 (昭和57年 3月)
第36集 北前道路発掘調査報告書 (昭和57年 3月)
第37集 仙台平原の遺跡群 I -昭和56年度発掘調査報告書- (昭和57年 3月)
第38集 郡山遺跡 II -昭和56年度発掘調査概報- (昭和57年 3月)
第39集 茂沢遺跡発掘調査報告書 (昭和57年 3月)
第40集 仙台市高速鉄道開発関係遺跡調査概報 I (昭和57年 3月)
第41集 年報 3 (昭和57年 3月)
第42集 郡山遺跡一宅地造成に伴う緊急発掘調査- (昭和57年 3月)
第43集 東遺跡 (昭和57年 8月)
第44集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書 (昭和57年12月)
第45集 茂庭一茂庭住宅地地盤造成工事地内遺跡発掘調査報告書- (昭和58年 3月)
第46集 郡山遺跡群 I -昭和57年度発掘調査概要- (昭和58年 3月)
第47集 仙台平原の遺跡群 II -昭和57年度発掘調査報告書- (昭和58年 3月)
第48集 史跡見啄古墳昭和57年度環境整備予備調査概報 (昭和58年 3月)
第49集 仙台市文化財分布調査報告 I (昭和58年 3月)
第50集 岩切畠中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第51集 仙台市文化財分布地図 (昭和58年 3月)
第52集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第2次調査報告 (昭和58年 3月)
第53集 中田畠中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第54集 神明社隣遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第55集 南小泉遺跡一青葉女子大学移転新校工事地内調査報告 (昭和58年 3月)
第56集 仙台市高速鉄道開発遺跡調査概報 II (昭和58年 3月)
第57集 年報 4 (昭和58年 3月)
第58集 今泉城跡 (昭和58年 3月)
第59集 Fノ内浦遺跡 (昭和58年 3月)
第60集 南小泉遺跡一倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書- (昭和58年 3月)
第61集 山口遺跡 II -仙台市体育馆建設予定地- (昭和59年 2月)
第62集 燐代遺跡 (昭和59年 3月)
第63集 史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報 (昭和59年 3月)
第64集 郡山遺跡群 I -昭和58年度発掘調査概要- (昭和59年 3月)
第65集 仙台平原の遺跡群群 I -昭和58年度発掘調査報告書- (昭和59年 3月)
第66集 年報 5 (昭和59年 3月)
第67集 富田水田遺跡- 第1冊一泉崎前地区 (昭和59年 3月)
第68集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第3次調査報告 (昭和59年 3月)
第69集 仙台市高速鉄道開発遺跡調査概報 I (昭和59年 3月)
第70集 戸ノ内遺跡発掘調査報告書 (昭和59年 3月)
第71集 後河原遺跡 (昭和59年 3月)
第72集 六反田遺跡 II (昭和59年 3月)
第73集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ (昭和59年 3月)
第74集 郡山遺跡 V -昭和59年度発掘調査概報- (昭和60年 3月)
第75集 仙台平原の遺跡群群 II (昭和60年 3月)
第76集 仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書 (昭和60年 3月)
第77集 山山上ノ台遺跡- 昭和59年度発掘調査報告書- (昭和60年 3月)
第78集 中田畠中遺跡- 第2次発掘調査報告書- (昭和60年 3月)
第79集 欠ノ上 I 遺跡発掘調査報告書 (昭和60年 3月)
第80集 南小泉遺跡- 第12次発掘調査報告書- (昭和60年 3月)
第81集 南小泉遺跡- 第13次発掘調査報告書- (昭和60年 3月)
第82集 仙台市高速鉄道開発遺跡調査概報Ⅳ (昭和60年 3月)
第83集 年報 6 (昭和60年 3月)
第84集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ (昭和60年 3月)
第85集 宮城県仙台市安山岩表層構造穴古墳発掘調査報告書 (昭和60年 8月)
第86集 郡山遺跡群 I (昭和61年 3月)
第87集 仙台平原の遺跡群 V -昭和60年度発掘調査報告書- (昭和61年 3月)
第88集 上野遺跡発掘調査報告書 (昭和61年 3月)
第89集 仙台市高速鉄道開発遺跡調査概報 V (昭和61年 3月)

- 第 90集 若林城跡—平安時代の集落跡（昭和61年 3月）
第 91集 東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書（昭和61年 3月）
第 92集 五城中北築跡発掘調査報告書（昭和61年 3月）
第 93集 仙台市文化財分布調査報告書IV（昭和61年 3月）
第 94集 年報7（昭和61年 3月）
第 95集 柳生（昭和62年 3月）
第 96集 郡山遺跡Ⅳ—昭和61年度発掘調査概報—（昭和62年 3月）
第 97集 仙台平野の遺跡群Ⅳ—昭和61年度発掘調査報告書—（昭和62年 3月）
第 98集 富沢遺跡（昭和62年 3月）
第 99集 五本松窯跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第100集 山田上ノ台発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第101集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ（昭和62年 3月）
第102集 六反田遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第103集 元森田遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第104集 富沢遺跡—東北地方建設局長町宿舎建設工事に伴う発掘調査報告書—（昭和62年 3月）
第105集 北前遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第106集 仙台市文化財分布調査報告書V（昭和62年 3月）
第107集 年報8（昭和62年 3月）
第108集 春日社古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書（昭和62年 8月）
第109集 南小泉遺跡—第14次発掘調査報告書—（昭和62年11月）
第110集 郡山遺跡Ⅴ—昭和62年度発掘調査概報—（昭和63年 3月）
第111集 仙台平野の遺跡群Ⅴ—昭和62年度発掘調査報告書—（昭和63年 3月）
第112集 東光寺遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第113集 富沢遺跡第24次調査報告書（昭和63年 3月）
第114集 富沢遺跡第28次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第115集 下ノ内浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第116集 燕沢遺跡（昭和63年 3月）
第117集 富沢遺跡第33次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第118集 富沢遺跡第34次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第119集 鳥崎浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第120集 銚ヶ丘、ニュータウン関連遺跡調査報告書（昭和63年 3月）
第121集 仙台市文化財分布調査報告書VI（昭和63年 3月）
第122集 年報9（昭和63年 3月）

仙台市文化財調査報告書第122集

昭和62年度

年 報 9

昭和63年 3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市国分町3-7-1
仙台市教育委員会文化財課

印刷 株式会社 共新精版印刷

仙台市日の出町2-4-2
TEL 236-7181

